

プログラム

13:00 開会挨拶

13:10～14:00 招待講演「外国語リスニングに必要な音声語彙力の定義と測定」

内原卓海氏(東北大学大学院国際文化研究科専任講師)

要旨:近年では、語彙の音声知識への注目が高まってきたこともあり、音声語彙テスト開発の試みが行われるようになってきた。しかし、音声語彙テストの妥当性についての議論は少ない。本講演では、日本人英語学習者を対象とした最新の音声語彙テスト開発研究を紹介する。研究結果を基に音声情報を介して認識するための音声語彙知識の定義とその重要性に触れながら、リスニング力にとって重要となる語彙力の定義とその測定方法を考察する。

14:05～14:30 研究発表「受容語彙サイズ測定における借用語の影響」

相澤彩子(立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科博士前期課程、聖心女子大学現代教養学部語学学習アドバイザー)

要旨:語彙サイズテスト (Vocabulary Size Test; VST) は英語学習者の受容語彙知識を測定する多肢選択式テストである。英語語彙サイズの推定には受験者の第一言語に含まれる英語からの借用語が影響するとの指摘がある。本発表では、選択肢が日本語である英日版 VST を用いて、日本語を第一言語とする大学生が借用語項目を非借用語項目と比較してどの程度正しく回答できるかについての研究成果を報告する。

14:35～15:00 研究発表「外国語語彙学習フラッシュカードアプリの分析」

海津泰雅(立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科博士前期課程)

要旨:本研究では、先行研究を元に作成した 20 項目からなるフレームワークを用いて、6 つのスマートフォン対応外国語語彙学習フラッシュカードアプリ (Quizlet、Mikan、iKnow、Memrise、Brainscape、WordHolic) を分析した。分析の結果、各アプリに異なる強みと弱みがある事が明らかとなった。本研究の結果は、アプリの選択や開発、今後のフラッシュカードアプリ分析の指針となり得る。

15:05～15:30 研究発表「日本語母語話者を対象とした英語コロケーションリストの開発と分析」

相馬紗也音(立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科博士前期課程)

要旨:定型表現の一種であるコロケーションは流暢かつ自然な言語産出に欠かせない。しかし、自然なコロケーション産出は上級学習者でさえ難しいとされ、中でも学習者の第一言語が負の影響を与えていることが一貫して指摘されてきた。これを踏まえ、本研究では日本語から英語に直接翻訳が不可能であるコロケーションのリストを開発する。さらにリストに掲載されるコロケーションを複数の観点から考察し、その特徴を明らかにする。

15:40～16:05 研究発表「日本における英単語集編纂史:受験用単語集成立までの道程」

熊谷允岐氏(立教大学英語教育研究所特任研究員、茨城大学全学教育機構常勤講師)

要旨:現代の英単語集は、受験生に普及する、語彙学習に欠かせない教材の一つだと言われる。だが単語集それ自体は日本において、いわゆる「受験英語」の対策として編纂が始まったわけではない。本発表では、単語集が日本でいつ、どのようにして受験との結び付きが強まるに至ったのかについて、それらの歴史的変遷を辿りながら考察する。本研究が日本における単語集、ひいては語彙学習の歴史的解明の一端を担うことができれば幸いである。

16:10～16:35 研究発表「クラウドにより収集された第二言語語彙習得データの質:Cepeda et al. (2009)のオンラインによる追試」

中田達也(立教大学異文化コミュニケーション学部教授)

John Rogers 氏(The Hong Kong Polytechnic University, Department of English and Communication, Assistant Professor)

Ming Ming Chiu 氏(The Education University of Hong Kong, Department of Special Education and Counselling, Chair Professor)

要旨:本研究では、オンラインの調査プラットフォームにより収集された第二言語語彙習得に関するデータを、対面により収集されたデータと比較することで、オンラインデータの妥当性を検証することを目指した。分析の結果、オンライン参加者の事後テスト得点は、対面参加者のそれよりも10～20%低いことが示された。また、オンライン参加者の61%が実験を完了しなかった。研究結果を元に、オンライン実験で質の高いデータを得るための方策について論じる。

16:40～17:30 招待講演「語彙学習を促進するタブレット用読解アプリケーションの開発と検証」

柳沢明文氏(筑波大学人文社会系助教)

要旨:本講演では、未知語の意味を説明する「注釈」の研究について紹介し、注釈が語彙学習にどの程度効果的か、学習効果を高めるためにはどのように注釈を提示すべきかについて議論をする。また、注釈を提示するタブレット向けの読解アプリケーションを作成し、学習効果を促進すると考えられる様々な機能の効果測定を行ってきた。研究成果を紹介しつつ、第二言語話者向けの読解アプリケーション開発の方向性を議論する。

17:30～17:55 総合討論

全員